

「私の毎日」

富山大学人間発達科学部附属中学校 二年

天谷 果愛

私は学校が嫌いだ。もっと寝ていたいのに早起きをしなければならぬし、通学リュックは重過ぎる。自転車に乗って学校に着いた頃には汗だくだ。椅子は硬いし、授業中先生に名前を呼ばれると心臓がバクバクする。家で過ごす方が楽しいに決まっている。

今年の二月、最初に休校が決まったとき、私は思わず「やった！」と声を出していた。しばらくは本当に楽しかった。のんびり身支度をし、少し勉強したら、空手の自主練をして過ごした。SNSで友達と簡単に連絡もとれるし寂しくなかった。それがどうだろう。私の楽しい休校生活は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、だんだんと辛いものになっていった。休校は長期間となり、楽しみにしていた運動会や修学旅行など、たくさん学校行事が中止になった。友達との面白い物や外食も今までのように気軽にはできなくなった。お昼ご飯を自分で作って食べるのもだんだん味気なくなった。そして、出場するはずだった空手の全中選抜大会や夏の全国大会が中止となり、四年に一度の東京オリピックも延期になった。

私は学校が嫌いだ。でも、今は前ほど嫌だとは思わなくなった。学校に通えるのは幸せなことだと気付いたからだ。休校が長く

なり、担任の先生やクラスメイトとオンライン授業が始まった時、物足りなさと言葉にならないような不安を感じた。ちょうどその頃、新聞で、人間の五感はオンラインだけで相手を信頼しないようにできているという話の紹介記事を読んだ。私たちは視覚や聴覚だけでなく、嗅覚、触覚、味覚も使って信頼を形作っているようだ。学校では授業中、友達とお互いに意見を出し合い、休み時間やお弁当を食べる時間にはおしゃべりと笑い声が止まらない。空手道場では相手の動きや呼吸を感じ取って技を出し合う。オンライン授業やSNSで簡単につながれても、どこか不安だったのは、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなり、できなくなったからなのだなと思っただ。そして今まで、いかに自分たちが幸せだったのかを実感した。今、私は元気に学校に通い、空手の練習も頑張っていて、毎日が幸せにあふれている。しかし、新しい感染症は簡単には収束しないだろう。地震や豪雨などの災害も毎年のように起きていく。幸せな毎日は当たり前ではなく、また突然変わってしまうかもしれない。

新型コロナウイルスによる生活の変化を経験して、私はこれから家族や友達への感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切に過ごしていきたいと思う。